

いろいろ座談会 + 16mmフィルム上映会

『角海浜物語』×『阿賀に生きる』

—自分を含めた世界の出来事—

座談者

斎藤文夫(郷土研究家、写真家、福井旧庄屋佐藤家・開炉裏の火焚きじいさん)

大熊孝(新潟大学名誉教授、『阿賀に生きる』製作委員会代表)

小林茂(映画監督、『阿賀に生きる』カメラマン)

旗野秀人(『阿賀に生きる』製作発起人、冥土のみやげ企画、新潟水俣病安田患者の会事務局)

村井勇(アトリエラボン、『阿賀に生きる』スチール)

聞き手 榎沢厚子(岩室温泉KOKAJIYA2F「室礼」)

2014年4月27日(日)

第1部 映画『阿賀に生きる』(1992年、佐藤真監督)上映会

10:00~12:00 鑑賞無料(カンパ歓迎) 席数40席程度 立見可

会場:新潟市岩室観光施設いわむろや内「伝統文化伝承館」

新潟市西蒲区岩室温泉96-1 ※駐車場あり

第2部 いろいろ座談会 『角海浜物語』×『阿賀に生きる』

14:00~17:00 参加費500円(お茶、資料代) 定員100名程度 立見可

会場:福井旧庄屋佐藤家 新潟市西蒲区福井1908 ※駐車場あり

第1部、第2部どちらかのみのご参加も歓迎いたします。

参加申し込みは不要です。当日は先着順でのご案内とさせていただきます。

あらかじめ席を確保されたい方は下記のいずれかから、ご連絡をお願いいたします。

その際、 1)参加者名、人数 2)連絡先電話番号 をお知らせ下さい。

お申し込み／お問い合わせ

メール:info@bricole.jp

電話:080-4051-1211

FAX:0256-78-8781

担当:ブリコール・榎沢(ぐみざわ)まで

HP:http://shitsurai.bricole.jp

企画 ブリコール(榎沢和典・厚子)

協力 太秦株式会社

NPO法人福井旧庄屋佐藤家保存会

NPO法人いわむろや

灯りの食邸KOKAJIYA



座談会開催について

『角海浜物語』写真 ©斎藤文夫

今年に入って『阿賀に生きる』の映像を観る機会がありました。阿賀の村々や老人たちの生きる姿を美しいと思う気持ちと、「自分もこんな老人たちのようにいつか達観して生きられる日がくるのだろうか?今は時代が違うから無理なのだろうか?」「うらやましい」と思う気持ち、また佐藤真監督はじめ、『阿賀に生きる』を制作した人々へ向かって、「なぜこんな映画が撮れたのだろうか、なぜ残そうとしたのか」ということを知りたいという興味がふつふつと湧いて出てきました。そうした感覚の余韻のうちに、過疎で消えた村「角海浜」を記録した斎藤さんへのインタビューに臨みました。すると斎藤さんのお話の端々で、『阿賀に生きる』の映像でみた老人たちがフラッシュバックしてきました。また、斎藤さんへのインタビューは、岩室温泉の古民家KOKAJIYA2F「室礼」で発行しているフリーペーパー「ひとひら」vol.2号に記事として掲載しました(「斎藤文夫さんに聞く、角海浜」)。それを読んだ大熊さん、旗野さんから『阿賀に生きる』に出てくる老人たちと角海浜の人々が重なって見えた」と、ほぼ同じ内容の感想をいただきました。「角海浜」と「阿賀」。

この海の村(角海浜)と山と川筋の村(阿賀)には少なからず共通点があり、またそれぞれに関わった人々のあいだにも、そこに惹きつけられた共通した理由があったのではないかと、それは何なのだろう、という問いから、この座談会を企画しました。

この問いは、今の時代に不可欠な答えに繋がっていると思うのです。

座談会の内容は、フリーペーパーの「ひとひら」次号にまとめる予定です。(榎沢)

表紙写真/『阿賀に生きる』スチールより ©阿賀に生きる製作委員会/村井勇

